

平成24年度
製品安全対策優良企業表彰
受賞企業講演会(製品安全セミナー)



審査の視点と 企業の取組事例について

平成24年度 製品安全対策優良企業表彰 事務局

平成25年2月25日

1

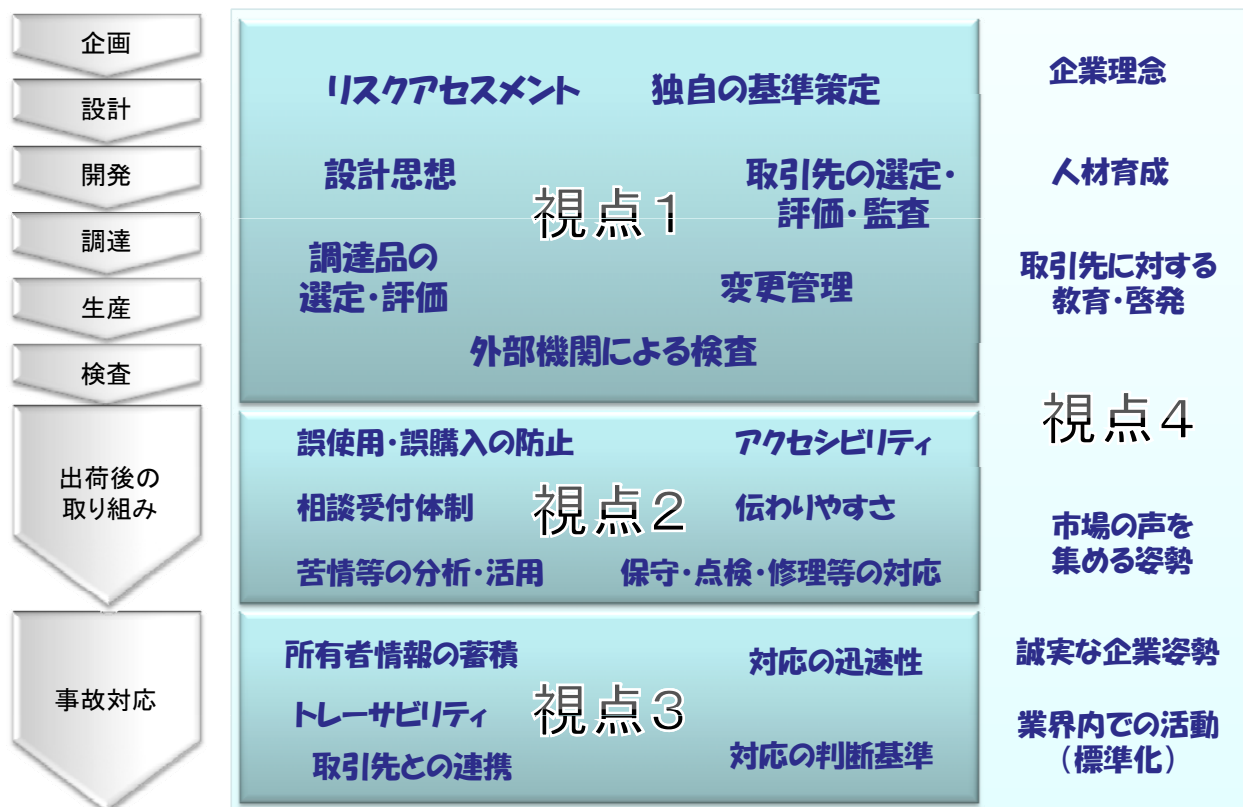
審査基準について

－ 4つの視点 －

	製造・輸入	小売販売
視点 1	安全な製品を製造するための 取り組み	安全な製品を仕入れ・販売するための 取り組み
視点 2	製品を安全に使用してもらうための 取り組み	製品を安全に使用してもらうための 取り組み
視点 3	出荷後に安全上の問題が判明した際の 取り組み	事故やリコール等が起きた際の 取り組み
視点 4	製品安全文化構築への取り組み	製品安全文化構築への取り組み

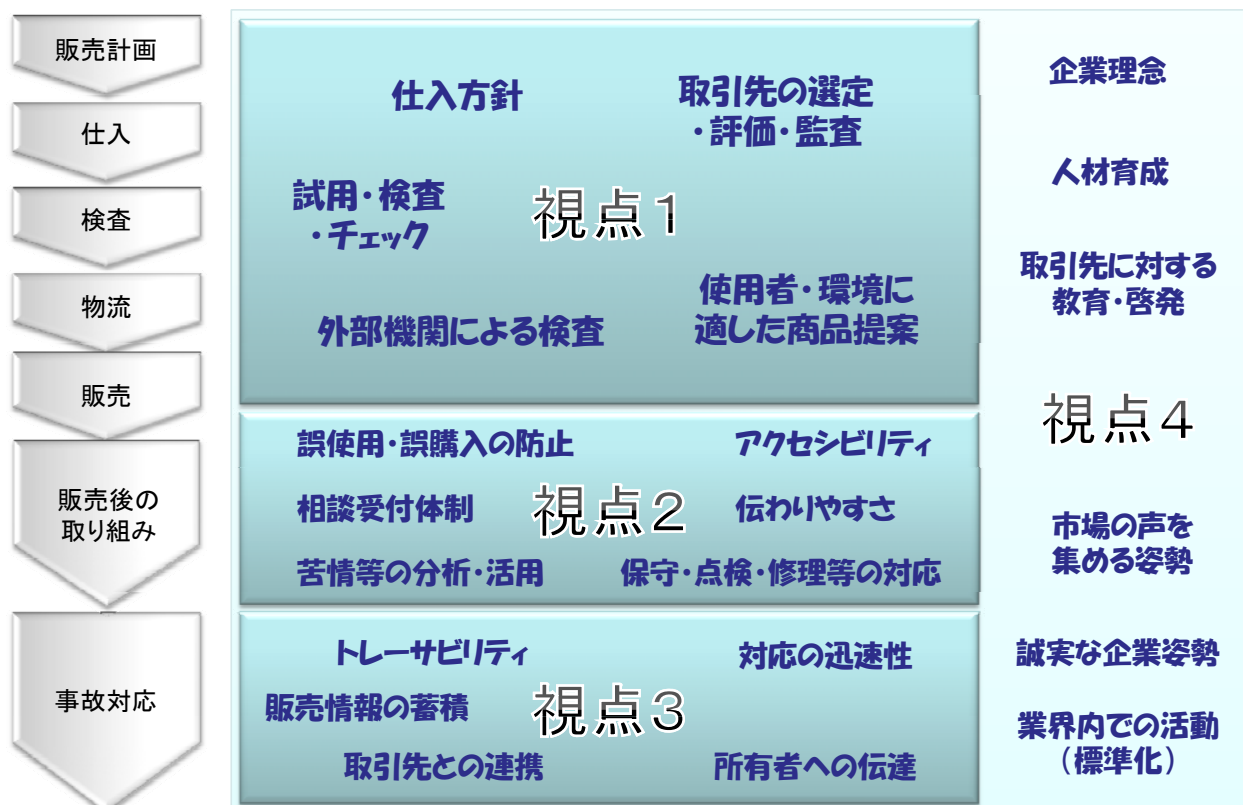
2

審査基準と業務プロセスの関係（製造・輸入）



3

審査基準と業務プロセスの関係（小売販売）



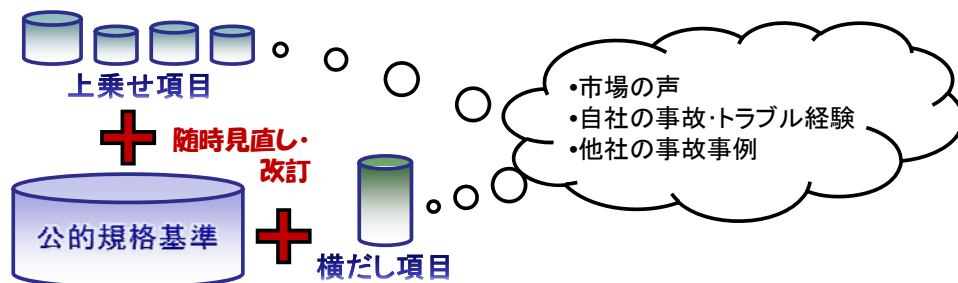
4

取組事例①

独自の安全基準の策定・運用(製造・輸入)

- 守るべき安全の“価値”を明確にし、関係者、取引先等と共有するために
- 使用方法・環境の実態・変化に応じた安全な製品を作るために

- 法令、国内外の公的規格基準をベースに、安全性を考慮した自社独自の技術基準、試験基準等を策定
- 公的規格基準に加え、基準値の厳格化(上乘せ)、評価項目の追加(横だし)を行い、製品リスクを低減



5

取組事例②

安全な製品の仕入れ・販売(小売販売)

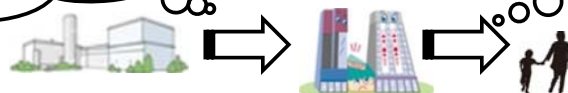
- 安全性を欠いた製品を仕入れないために
- 消費者が安全に使用できる製品を販売するために

- 仕入先の評価・選定の仕組みを構築
- 製品群ごとに仕入基準を策定
- 製品の安全性に関して仕入先と契約を締結

• 自社で試用、検査、チェック

取引先の選定基準・評価シート、契約などによって、不安全な製品を作らせない仕組みを構築

自社のお客様の使用環境、年齢、知識レベル等を踏まえ、安全に使用してもらえる製品を仕入れ・提案・販売



6

取組事例③

取引先・ユーザーの教育・意識啓発(共通)

- ユーザーと一緒に安全を作り込むために
- 取引先による製品不良を低減するために
- 協力関係・信頼関係を深めるために



- 消費者関連セミナーやイベントに参加し、自社の取組を紹介するとともに、消費者と対話して、考え方・意見等を収集
- 消費者の苦情・クレーム、トラブル製品の実物、事故の再現実験映像・模擬体験など、展示イベントを開催
- 供給品の品質実績等に応じた表彰制度を運用



- 取引先・ユーザーを巻き込んだ活動の展開
- 取引先・ユーザーとともに製品安全文化を構築

7

取組事例④

製品安全情報の収集・分析・活用(共通)

- ユーザーの使用方法・環境を把握するために
- 事故の予兆を早期につかむために



- 社内外のモニター制度を運用
- 寄せられた声のテキストマイニングによる傾向分析。分析結果を元に、自社基準の見直し等に活用



- 使用方法
- 使い勝手
- 使用環境
- ヒヤリ・ハット



- 事故につながりそうなキーワードの抽出
- 他社類似製品による事故の収集・分析
- 製品開発、基準見直し等、上流工程にフィードバック

8